重要文化財（美術工芸品）の追加指定に係る資料

１　名称及び員数：

木造大日如来坐像　　１躯
木造金剛薩埵坐像　　１躯
木造尊勝仏頂坐像　　１躯

附　大日如来像追納品

一、漆塗厨子　　１基
一、清信院関係資料（９３０点）　　３９包
（漆塗厨子分）
一、真鍮製厨子　　１基
一、清信院関係資料（３６１点）　　４７包
一、祠入木造男神坐像　　１躯
（以上真鍮製厨子分）
尊勝仏頂像追納木札　　１１枚

※下線部：今回の追加指定

２ 所有者：宗教法人　新義真言宗総本山根来寺（岩出市）

３ 概　要

○根来寺は、岩出市根来に所在する新義真言宗の寺院で、平安時代後期に高野山内に創建された大伝法院に起源を持つ。のち現在地に移転し、中世後期には大寺院に発展した。秀吉による紀州征伐（天正の兵火）で大きな被害を受けたものの、近世を通じて復興が進められた。

○本堂である大伝法堂安置の巨大な三尊像（大日如来坐像・金剛薩埵坐像・尊勝仏頂坐像）は、室町時代に製作された根来寺の本尊で、天正の兵火を免れ今日に伝えられている。昭和 55 年に三尊像の本格調査が実施された際、中尊の大日如来坐像の像内から２基の厨子に納められた大量の納入品が発見された。

○この納入品は、第８代紀伊藩主徳川重倫の母・清信院（1718～1800）により、寛政 11 年（1799）に根来寺大塔に奉納されたものである。文政 10 年（1827）の三尊像修復及び大伝法堂再興に伴い大日如来坐像の像内に追納されたことが、尊勝仏頂坐像の像内に納められた木札に記される。

○２基の厨子のうち、漆塗厨子（高さ 54.7 ㎝）には寺院の護符類などが、真鍮製厨子（高さ 47.0 ㎝）には神社の護符類などが分けて納入されており、包紙を含め、総数

は約 1,300 点に及ぶ。その内容は、清信院が全国から蒐集させた膨大な数の護符類をはじめ、娘である光安院の自筆の短冊や日記、清信院が光安院に贈った護符類、夫の第７代藩主宗将(むねのぶ)から贈られた数珠、そして息子重倫の髪など、多岐にわたる。また、それぞれの品を包む美麗な西陣織(にしじんおり)の納袋(おさめぶくろ)は、長く外気に触れることがなかったため、当初の鮮やかさを留めている。

〇三尊像は昭和 55 年の調査後、平成６年に重要文化財の指定を受けたが、追納品については、近年、網羅的な整理作業が完了したことに伴い、このたび三尊像の附(つけたり)として追加指定されることとなった。

〇以上のように本件は、追納品ではあるものの、他に例を見ない分量を誇り、根来寺大伝法堂の再興に関わるものとして重要であり、また、同寺に深く帰依した清信院ら紀州徳川家の人々の人となりや信仰の在り方がよくわかるものとして、高い価値を有している。

※附（つけたり）指定：　重要文化財と一体をなしてその価値を形成している資料のこと。美術工芸品においては厨子や納入品、建造物においては棟札や図面など。

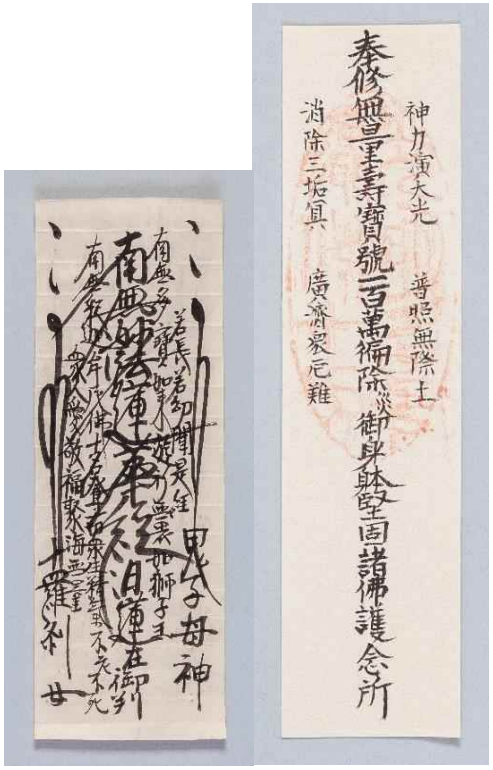
【参考】根来寺　大伝法堂　内部

（三尊像のうち、中央が大日如来坐像　向かって左が尊勝仏頂坐像）

（漆塗厨子）★

（真鍮製厨子）★

（納袋）★



（護符・祈祷札）★

追納品

（展開例）